

②④国立自然史博物館誘致推進事業

○実施主体：県（環境部自然保護課）

○実施期間：R4.4.1～R5.3.31

○復帰50周年記念事業のテーマ

1 事業を通して、新たな振興計画、新時代沖縄の展望を県民と共有し、沖縄の可能性を国内外に発信する。

○事業内容

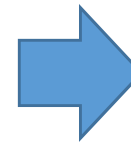
国立自然史博物館の県内誘致に向け、シンポジウム等の開催や周知啓発用ツールを活用し、自然史博物館の概要や役割、設立意義や期待される効果等について広く県民に情報発信し、理解を深めさらなる機運醸成を図る。

①周知啓発（情報発信）

シンポジウム、企画展等の開催（令和4年度エコライフフェアで開催予定）

②関係団体への働きかけ

③誘致県民会議の設置に向けた庁内連絡会議の設置・運営



機
運
醸
成



誘
致
実
現

○誘致活動を復帰50周年記念事業として位置づける意義及び効果

- ①令和3年に世界自然遺産に登録された沖縄島北部や西表島をはじめ、沖縄の生物多様性の豊かさやその重要性をより多くの人に発信し、自然環境の保全や沖縄観光の魅力の強化に繋がる。
- ②東・東南アジア全体の自然史科学を支える研究及び人材育成の拠点となり、県内の子どもたちの自然科学に対する関心を高め学力向上に繋がる。
- ③SDGsで掲げる陸の豊かさを守り、海の豊かさを守ることや、東・東南アジアと連携した国際貢献に繋がる。

○自然史博物館とは

自然史とは、自然（動物・植物・地質・宇宙等）の姿やその歴史のことで、自然史科学はそれを研究する学問であり、自然史博物館は自然史科学専門の博物館である。

自然史博物館 の役割

- ①研究成果を活用した展示・教育・普及
- ②自然史標本に基づく自然史科学の研究
- ③自然史の標本の収集・整理・保管



①展示イメージ（恐竜の化石）



②研究イメージ



③標本イメージ（世界の昆虫）

○国立自然史博物館の必要性（アジアは国際的研究拠点の空白地帯）

英国、フランス、米国など欧米各国には国立の自然史博物館が存在し、自然史科学の国際的研究拠点となっているが、日本を含めたアジアには、そのような拠点がなく、自然史科学研究が遅れている。自然史科学研究の成果は、気候変動や災害メカニズムの解明、新たな資源の発見、生物の機能を応用した技術（バイオミメティクス）など、人類の存続・発展のために多大な貢献を果たす。